



「見たり、聞いたり、探ったり」No.212

通算 No.364

青 木 行 雄

オスマン・サンコン氏「旭日雙光章」を受章

謹啓 梅雨の候 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたびオスマン・ユーラ・サンコン氏には多年にわたり日本とアフリカの友好関係の発展に寄与された功績により、平成29年春の叙勲 旭日雙光章の榮譽に浴されました。

つきましては有志相集い下記の通り受章祝賀会を開催いたしたくご多用の折まことに恐縮に存じますが、ご光来の榮を賜りますようご案内申し上げます。

謹白

平成29年7月吉日

発起人 埼玉県知事 上田清司
在駐日ギニア共和国大使 サンクン・シラ
北野武

日時 平成29年8月18日 午後6時
場所 東京プリンスホテル・2階大ホール

オスマン・ユーラ・サンコン氏
叙勲を祝う会

事務局 サンコンシステムズ有限会社

こんな案内を平成29年7月にいただき友人5人と参加することになった。

東京タワーのすぐ近くの東京プリンスホテルには約400人の人で、全員着席、本人がアフリカのギニア人だけにいろんな国の人達も参加して、国際色豊かな祝賀会であった。

祝賀会の翌日『日刊スポーツ』に掲載された記事に



※オスマン・ユーラ・サンコン氏受章看板。



※約400人の参加者に会場満員の風景。東京プリンスホテルにて、全員着席。

は、「オスマン・サンコン旭日雙光章、昭恵氏も祝福」との見出しで。

タレントのオスマン・サンコン氏(68)が18日、今年4月に旭日雙光章を受章した祝賀パーティーを開催し、千葉真一氏や安倍首相夫人の昭恵氏、コシノ・ジュンコ氏ら約400人が出席した。

日本とギニアの友好のために尽力してきたサンコン氏は、72年にギニア大使館立ち上げと共に外交官として来日。45年にわたり日本で生活している。80年代から90年代にかけフジテレビ系「笑っていいとも！」などバラエティー番組に出演し、お茶の間の人気者となった。

「ギニアという国を知ってもらうことと、黒人が怖くないということを伝えたくてね」と振り返る。受章については「日本に来て本当によかった。今後でもできることをやっていきたい」と語った。来日当時、視力6.0と話題も「今は1.2です。年とっちゃったしね」と笑顔で明かした。

こんな記事が出ていた。

現在、深川・木場公園の近くのマンションに住んでいるオスマン・サンコン氏の生まれた「ギニア」はどんなところか。簡単に説明すると、

アフリカ西部、大西洋に面する共和国。1958年(昭和33年)フランスから独立。正式名称はギニア共和国となる。面積は約24万km²。人口は1,022万人。首都はコナクリ。

産出品は、ボーキサイト・鉄・ダイヤモンド等。住民は黒人。主要言語はフランス語・マリンケ語。

オスマン・サンコン氏について

生年月日 1949年(昭和24年)3月11日 丑年

国籍はもちろん、西アフリカ、ギニア共和国である。

経歴・資格 1969年(昭和44年)首都コナクリの「コナクリ大学」を卒業後、フランスのソルボンヌ大学に国費留学する。

1972年(昭和47年)ギニア外務省に入省する。

同年大使館開設のため駐日大使と同行して来日。8年間大使館に勤務。一時渡米したが1984年(昭和59年)外務省を退職して再来日して現在に至る。

資格は介護ヘルパー2級、普通運転免許。



※鏡割り用の法被を着たサンコン氏とご夫人。



※津軽三味線を弾く、イベントでの人達。写真の客席一番右側に尾車部屋の親方が見える。

趣味・特技 アウトドア・サイクリング・カラオケ・読書

6ヶ国語が出来る

日本語・フランス語・英語・ギニア(スूसー)語・スペイン語・イタリア語の6ヶ国語だが、やっぱり日本語が1番難しいと本人が言っている。

「笑っていいとも！」をはじめとするバラエティ番組で、笑顔のサンコンと言われた有名人である。

以前はキンチョールや日清焼そばUFOなどのCMに度々出演しており、著書も講談社から『大地の教え』『サンコン少年のアフリカ物語』等、かなり出版している。

現在はギニア日本大使館顧問、ギニア日本交流協会の顧問など務め、故郷であるギニアのボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。

もう少し、サンコン氏の生い立ち等についてふれてみたいと思う。

銘木の森山社長の御計らいでミニ講演をすることになり、JKホールで開催した。その内容について掻い摘んで記してみる。

「私は木場が大好きで、10年程前に深川・木場に引越して来ました。(ここで話がちょっとそれるが、サンコン氏の祝賀会の時、トップに祝辞を述べたのが江東区長の山崎様であった。今日は区長としてではなく、江東区に住むサンコン氏の友人として来ていますとおっしゃっていました。)

実は、こうして段上に立っていれば分からないかも知れませんが、私は右足に障害があります。高校時代に夢中だったサッカーで右足を骨折して入院したのですが、当時のギニアの医療設備・技術では完治に至らず、現在も曲がったままです。この経験が、ギニアの医療をはじめ、経済・生活水準などを先進国並みに発展させ、未来の子どもたちに同じ思いをさせたくないという想いと、今の私のボランティア活動力になっています。サッカー選手になって世界へ羽ばたく夢を失い、『自分の人生は終わりだ』と絶望感に打ちひしがれました。

生まれ育ったギニアは一夫多妻制を認めているので、私の父には第1から第3まで3人の夫人がいました。ちなみに兄弟は22人いて、私は4番目です。私を生んだ第1夫人は、曲がった足首を毎日お湯の中に入れて、泣きながらマッサージしてくれました。そんなある日、空を飛んでいる飛行機を見て『どうやった



※鏡割りの用意をする人達。一番右にいる山崎江東区長も参加。



※鏡割り。昭恵夫人も参加。左から4人目。

ら飛行機に乗れるのか』と聞いたんです。するとお母さんは、『一所懸命勉強することよ。そうすれば、世界中どこでも行ける』と教えてくれました。その後、サッカー以外の夢をみつけた私は、脇目も振らず猛勉強して国費でフランス・ソルボンヌ大学に留学し、外交官になることが出来ました。未来への希望を失わなければ、絶望から這い上がれると、お母さんが教えてくれたんです。

そんなお母さんのために、私は日本の介護ヘルパーの資格を取りました。ギニアと日本で離れて暮らしていましたが、電話で介護の指示をしたのです。産みのお母さんは、平均寿命が55歳のギニアで86歳まで長生きしました。特に意識したのは、体温と血圧です。日本の高齢者施設でも、朝イチで行うことは寝たままの状態体温と血圧を測ること、体温が下がると血流が悪くなり、免疫力が低下してしまいます。全身を駆け巡る血液を管理することは、健康にとって非常に重要だということを学びました。また、病気の原因に大きく関与するのが心の問題です。私は、日本に来て初めてストレスという言葉を知りました。文明病の一つで、ストレスは健康を崩す一番怖い原因かもしれませんね。健康法は物事を深く考えすぎず正直に生き、できるだけ自然の流れに任せることだ」と本人はいう。こんなすばらしい話を聞く機会があった。

アフリカには小さな国も含めて現在54ヶ国位あると聞くが、日本に大使館がある国は30ヶ国ぐらいと聞いている。その国々の集会在時々開催され、何回か招待された。その時司会をされていたのが、オスマン・サンコン氏であった。ブルキナファソのフランソワ・ウビダ大使の紹介で知りあったのが5～6年前になる。それからの付き合いだが、サンコン氏は、すっぽん料理や、ふぐ料理が大好きで時々同席している。「私はいくら酒を飲んでも顔が赤くなりません。黒人だから」と人を笑わせる。いつも笑顔のサンコン氏である。そして今でも虫歯が1本もないという。ギニアに住んでいた頃から歯磨きはハーブを使っていたのが良かったのかと本人はいうが……。

日頃よりギニアと日本の相互理解と友好関係の構築にご尽力され、さらに、常に日本国民の気持ちに寄り添い、素敵な笑顔と暖かい助け合いの輪を広げて、日本にとってもすばらしい、日本に住む、ギニアのサンコン氏である。

オスマン・サンコン氏の長年に渡る活動とその実績に敬意を表し、この度の栄えある受章を心からお喜び申し上げたい。

参加者全員に挨拶状と記念品をいただいた。



※ギニアの正装で段上にあがるサンコンご夫妻。



※賞状。

ご挨拶

謹啓 皆々様におかれましてはますますご清栄の御事とお慶び申し上げます

私儀

旭日雙光章受章記念祝賀会

開催に際しましては公私ともにご多用中にも拘らずご臨席を賜り誠に有難く心より御礼申し上げます
お陰様をもちまして盛会裡に終了する事ができました

これもひとえに皆様のご高配の賜と深く感謝申し上げます

今後とも皆様のご厚情に報いるべく一層の精進を心掛ける所存でございますのでさらにご指導ご鞭撻
を賜りますようよろしくお願い申し上げます

尚、ささやかながら記念品を用意いたしましたのでご笑納下されば幸甚に存じます

未筆ではございますが、ますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げ御礼のご挨拶といたします

敬具

平成29年8月18日

オスマン・ユーラ・サンコン

記念品には、菊の紋章の「ボールペン」が全員に贈呈された。

祝賀会参加者の中には、有名人千葉真一氏や安倍首相夫人の昭恵氏、コシノ・ジュンコ氏、山崎江東区
長など400人あまりが出席した。

アフリカの果てから初めて日本にやって来て、飛行場で降りた時、日本の服装にびっくりしたという。
チョンマゲに腰に刀とっていたのでしょうか。それからの努力は大変なものがあったと思う。

現在は駐ギニアの大使館の補佐官、顧問として又アフリカ全大使館のアドバイザーとしても活動してい
る。

もともと『笑っていいとも!』や『天才たけしの元気が出るテレビ』などに出演してただけあり、タレン
トのイメージが強いが1973年(昭和47年)にギニア大使館設立の為に日本にやって来て、タレント活動をし
ていたのはアフリカを日本人に知って貰うためだっ
たという。

1972年(昭和47年)頃の日本は高度経済成長の真っ
只中であったが、そんな中、アフリカの一国である
ギニアは貧困層も多かったと聞く。そのような国か
ら日本に出てくる情熱と勇氣は称賛に値する行いと
思う。出願者、2万人の中から選ばれたサンコン氏は、
普通の頭の持ち主ではないことが良くわかる。

途中何年か日本を離れた事もあるようだが、日本



※芸能人からの祝花。

とアフリカの為に尽力し、故郷の為に学校を建てたり、生活物資から消防車まで様々なものを送っている活動もよく知られているようだ。

そんなことから日本とギニアの友好のために尽力した活動が認められ、平成29年4月にこの受章となったのである。

「勲章の重さを感じている。愛しているからね、日本を。裏切らないように頑張ります」。

この受章に公私共に心からお祝い申し上げたい。

平成29年9月17日記



※おみやげのボールペン。菊の紋章が目立つ。



出典；<http://africa-rikai.net/data/GUINEA.html>